

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

第4回フォーラム検討会議

逐語録

(木村) それでは、第4回のフォーラム検討会議を始めます。

まず、資料を確認しておきたいと思います。最初がフォーラム検討会議の議事次第です(F4-0)。次に、議事録案がF4-1です。逐語録がF4-2です。第7回「エネルギーと原子力に関するアンケート」のご協力のお願いがF4-3です。第7回「エネルギーと原子力に関するアンケート」がF4-4です。第6回のご協力のお願いがF4-5です。第6回「エネルギーと原子力に関するアンケート」がF4-6です。フォーラムに関する議論の整理がF4-7になります。これは前回の資料と変わらないものです。「フォーラムへのご協力のお願いが、F4-8、A3の折りたたまれている資料です。そして、フォーラム参加申込書の、1ページ目にQ6まであるほうが専門家用なのですが、これがF4-9です。最後に、フォーラム参加申込書で1ページ目がQ5までのものが首都圏用で、F4-10になります。

今日確実に達成しなければいけないのは、「フォーラム説明書およびフォーラム参加申込書の検討と確定」ということになります。そこに向けて進めていきたいと思います。

0. 議事録確認

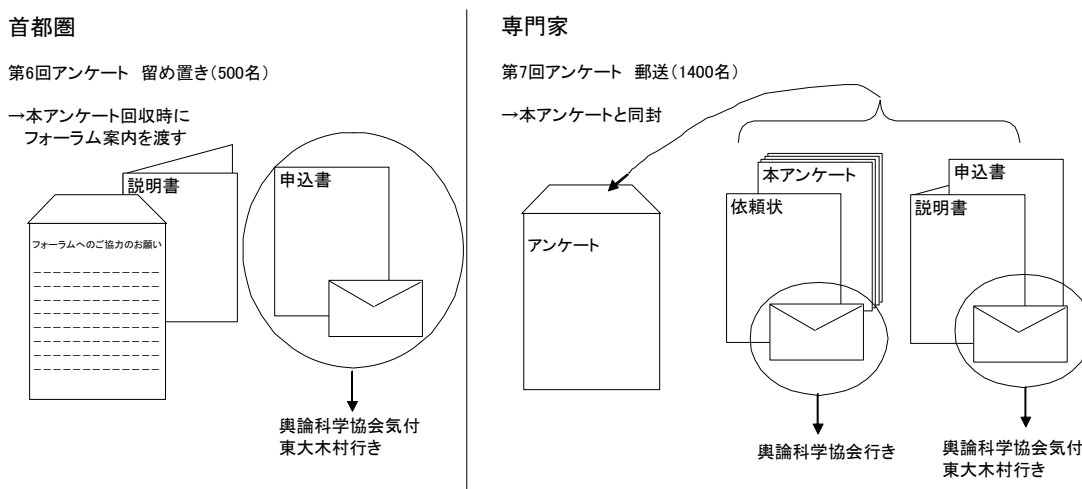
(木村) 最初に議事録の確認をしておきたいと思いますが、今日はあまり時間がないので、読むのはやめておきます。あとで読んでいただいて、ミスがあればご指摘ください。

その代わりに、現在アンケートがどういう状況になっているか、F4-3などを使ってご説明いたします。

まずは、本アンケートなのですが、今日お配りしたのは最終バージョンの1つ手前のバージョンです。昨日の夜、さらにミスを発見したので変わったのですが、このようにアンケートが完成しました。今年度の1月のアンケートはこれでやるということになります。

第7回が専門家のほうです。第6回が首都圏用のアンケートになります。専門家と首都圏のやり方が少し違うので、説明しておきます。

(ホワイトボード使用)



専門家は郵送で行います。首都圏は留め置きという方法です。

郵送は、学会員リストから1400名をランダムサンプリングして行います。回収率が40%ぐらいで、600くらい返ってくるということですね。

首都圏は500名の留め置き法で、年齢と性別で分けて、500名が集まるようにやるということです。

首都圏のほうは、この本アンケートを回収するときに、フォーラムの案内を出すということになります。フォーラムの案内は、封筒にA3の説明書と、申込書と、あとは返信用封筒を入れて手渡すという、こういうセットになります。

専門家は、アンケートと同封します。本アンケートが郵送なので、封筒の中に依頼書と本アンケートがあって、本アンケートの回収用封筒が入っている。その他に、A3の説明書で、申込書と返信用封筒を挟んでいれておく。こういう感じですね。これを全部この中に入れて郵送する。

だから、フォーラムに関しての情報が相手に届くタイミングが違います。専門家のほうは、本アンケートが送られてくると同時に、この中にフォーラム用の一式も全部入っている。従来は本アンケートの3点セットだけだったのですが、今年度はフォーラムのセットも入っていて、フォーラムのセットははクリップで留めて、一緒に入れて、郵送するということになります。なので、専門家のほうは本アンケート用の封筒と、フォーラムの申込書の封筒の2つが入っていて、別々に入れて出すということになります。

首都圏のほうはシンプルで、調査員が本アンケートを直接回収しに行って、そのときに、ありがとうございましたと言って、このフォーラムの一式を袋の中に入れておいて、謝礼と一緒に、もしご興味があれば、フォーラムの参加もご検討くださいと渡す。そして、申込書は郵送してもらいます。宛先は東大木村のほうに届くようになっています。東大木村では開けません。本アンケートのほうは東大木村で開けて、そこでデータ整理をして、データをセットにして私のところに来るのですが、申込書

のほうは郵送したら、そのまま私のところに封筒が束になって届くという感じです。

専門家もそうですね。本調査は輿論科学協会、申込書は輿論気付木村です。という感じで回収をするというスタイルにしました。

理由は、本アンケートは匿名性が必要だし、そういうところで倫理性を担保するのですが、フォーラムの申込書は匿名性は難しいですね。住所とかいろいろ個人情報が入っているので、その個人情報は取り扱いに注意しながら、私のところで一元的に扱うというスタイルにしたということです。

ということで、本アンケートの依頼状も、最初はフォーラムの依頼状とまとめるかとか、いろいろあったのですが、そういうのは今回やめて、特に社会調査のほうは今までは変わらない、継続でずっとやっていることだというスタイルでいったほうがよかろうということで設計しています。そのほうが調査としても比較が容易になるし、今までの傾向の中で、フォーラムに参加した人たちがどの辺りにいるのかも見やすいということで、このように今回はセットしています。というのが、まず、社会調査グループの進めてきた方針です。

次に、中身を見てもらいたいと思います。F4-4 を見てください。これは専門家用のアンケートですが、基本的には首都圏用のアンケートと一緒にです。9 ページと 11 ページが違いますが、あとは全部一緒になります。

9 ページは、原子力に携わっている人たちや組織についての意見を聞く質問ですが、「自分たち」と思うとすごくつけづらいですねということで、「一般市民はどう思っているとお考えですか」、ということにして、修正を加えているということです。ここが少し違うところです。

2 ページ目に一般的な関心・不安。3 ページ目に原子力規制委員会の話を持ってきました。スケールで取る必要はないだろうということで、いくつでも選んでというスタイルにしたということになります。次に、原子力発電についてということで、これは継続でやっています。Q9 が今年度新しく変わったところということですね。

Q8 の問題文の中で、「右の選択肢うち」になっているので、ここに「の」を追加したというのが修正です。

Q10 に「原子力利用に係わる意見として」というのがあります。その後が福島事故以降の意見ということ。次に 20 年後の発電について、というのがあります。次に放射能・放射線に関する意見を聞いて。最後に、原子力に携わっている人たち、組織についてお伺いしますという設問が入ります。

10 ページ目の Q19、20 が、こちら（フォーラム検討会議）から提案して、入れてもらったものです。Q19、省エネをこころがけた生活について。Q20、原子力発電をやめるためであれば電気料金が上がってもいいか、という話。Q20 は値段で、という話もあったのですが、やはり値段だと人によって概念が変わってくるということで、相対化して聞きましょ

うということで、割合で聞いています。7 ページの 20 年後のエネルギーの設問で、値段ではないのですが、発電量の何割ぐらい、という聞き方をしているので、統一感もあるからこれでいいのではないかとということで、こういうスタイルにしたということになります。いろいろここら辺はもめたのですが、こんなところに着地したというところでしょうか。

ということで、社会調査グループはアンケートを確定して、もうこちらは時間がないので作業に入りつつあるというところですよ。

それにあわせて、アンケートを郵送する際にはフォーラムの説明書、申込書を一緒に入れる必要が出てくるということで、今日、F4-8~F4-10 は確定してしまいたいと思います。

ということで、ここまでで、何か不明点はございますか。どんな方法でやるのか、イメージがつけばいいかなと思います。

—— 時期的にはどんな感じなのですか。

(木村) 来年 1 月 7 日から調査開始になります。回収は 1 月 26 日だと聞いています。専門家のほうは 1 月 26 日に回収ということで、2 月頭ぐらいにはデータセットとしてこちらに納品されると。

フォーラムのほうも、どのくらい申し込みが来るかというのはちょっと予測が難しいところなのですが、専門家のほうは、確か 1 月です。これに書き込まないといけないのですね。

—— そうなのですよ。今、「●月●日(月)までに」となっていますが、目標としてどれくらいに出して、というのが分かれば。

(木村) はい。確か、フォーラムの申込書のほうも、1 月中に投函をしてくださいとお願いすることになります。

—— 1 月 26 日は月曜日でしたっけ。(月) とありますけど。

(木村) あ、(月) は違います。

ということで、だいたいスケジュールとしては、1 月末にはフォーラムの申込書も投函してもらって、それはまず輿論科学協会にいて、そこでまとめて、封筒のまま私のほうに戻ってくるということになります。

あとは、混乱しないようにアンケートの色を変えとか、中身の色を変えとか、実はそういうものもあります。が、それは向こうの話なので、ここでは省略します。

他はいかがでしょうか。

—— 首都圏の 500 名は、最初はやはり郵送ですよ。

(木村) いえ、違います。これは留め置きという方法で、調査員が行って、渡す方法です。そこでやりませんといわれたら、違う人に行きます。それで回収で 500 名を確保するという事です。

—— それが当たるということは、ものすごい確率ですよ。

—— 首都圏って、結構広い範囲ですね。

(木村) はい。日本橋を中心とした 30 キロ圏内です。半径 30 キロなので、神奈川、千葉、埼玉も入りますね。

—— 首都圏は、本当は山梨も入るのですよね。

(木村) 首都圏と言っていますが、そういう定義でやります。

—— 都心ということですか。

(木村) そうことです。まあ、30 キロが本当に都心かと言われると、また難しいですけど、そういう事です。他はいかがでしょうか。

—— お願いにいくのは、すごく大変ですよ。

(木村) それはプロの調査員がやるのです。それが仕事ですから。

—— 国勢調査だって、オートロックのマンションが増えてしまったものですから、すごく大変だと言っていましたからね。でもプロがいるのです。

(木村) そうですね。これからは個人情報が入らない時代なので、どんどん郵送調査ができなくなっていくのです。

専門家のほうは、原子力学会でやる調査なので、原子力学会の中の名簿情報を使わせてもらえるということですね。だから、これは学会と組まないといけない調査です。

1. フォーラム検討状況の確認

(木村) では、早速本日の本題に入っていきたいと思います。

「フォーラムに関する議論の整理」ということで、前回までにどういう議論をしていたかというお話をさせていただきます。資料 F4-7 です。これはこの前の全体会合のときの資料をそのまま持ってきましてけれども、肝心なところだけを読んでいきたいと思います。

観察者の目的設定、研究実施者の視点としては、「ムラびと」と「市民」との協働によって「原子カムラ」を越えるという最終目標に一步踏み出すために、「ムラびと」と「市民」とのコミュニケーションの場（フォーラム）を設計し、「ムラびと」と「市民」の相互作用（ダイナミズム）を学術的に記述し、「原子カムラ」を越えるための要件を洗い出す。というのが目的になります。

そのためにいろいろ設計をしたということですが、少しスキップしたいと思います。次のページにいきます。

フォーラムの目的設定です。フォーラム参加者は何を目的に参加するのかということに関して、フォーラム参加者の目的は観察者の目的とほぼ類似のものとする。つまり、「原子カムラ」をどうやって越えていけるのかという実験に参加することに意義があるのだ、ということとして持っていきたいということになりました。

次のページには文案があります。こういう雰囲気を書けばいいのではないかということ、このときに書いたものですが、これをベースにしながら、かなり大きく変えて文案を構成していますので、それは今日細かく見ていただければと思います。

その下に、参加者のメリットの整理があります。市民のメリットは、研究に参加できる。学術的成果があがる。専門家に会える、会話ができる。意見を言える。わからないことを質問できる。謝金。最後にシンポジウムで、社会に対しフォーラムの成果が発表される。などがあるのではないかと。

専門家のメリットとしては、市民の感覚を知る。市民と専門家の認識のずれを知る。専門家が過剰反応していたことを知る。原子カムラを越えるためのヒントが得られる。そういうメリットが感じてもらえるのではないかとということを一応整理したということになります。

次は「市民パネルの募集、決定」です。今日はこのために申込書の準備をすることになりますが、1月実施の調査（首都圏調査 500名、学会員調査 500名規模）からそれぞれ 10名を選択すると。選択は 2月の業務になります。今日は、郵送するお願い状を作ることになります。

何を基準にするかということに関して。原則としては、市民側は年齢、性別、原子力の利用を基準にして、まず絞りこんでいく。そういうパターンの中に多くの候補者がいたら、1名に絞り込むためにその他の設問を利用して、なるべくバラバラな人たちが集まるように設計したいということです。

専門家の場合は、性別、原子力の利用というところが分かれそうにないので、専門領域を考慮していくということになります。

追加案として、省エネ生活と電気代の話を入れたいということでこちらから要請して、設問にしてもらったということになります。

では次のページにいきます。「フォーラムの内容、段取りの決定」ということですが、フォーラムの日取りは5回、最終シンポジウムは1回ということになります。曜日と時間帯は、土曜日の午後、初回のみ、13:00~17:00で、プラス懇親会をしたらどうかということですね。そういう設計でしております。

第1回から第5回までの目標みたいなものは、そこに書いてある通りです。第1回は、オリエンテーション。自分が何を大事にしているのかというお話を、原子力ムラについてどう思っているのか話してもらおう。第2回は、ムラにある課題を話したらどうか。第3回は省エネ。第4回は安全神話。第5回は、自分たちの中で原子力ムラが越えられたかどうかという話をしていこうということになっています。

そして、その後にシンポジウムがあるということです。

実際に何月何日にするのかということは、今日決めておきたいと思います。

公開の程度ですけれども、チャタムハウスルールを準用して、個人情報取り扱いに注意しながらも、情報を公開することで場の公正性を確保したいということ。

ということで、フォーラムに関しての一通りの議論の展開を追いかけたけれども、いかがでしょうか。今日の議論に関係がありそうなところだけピックアップしたので、議論を進める中で疑問に思うところがあれば、こちらに戻っていただければと思います。

2. フォーラム説明およびフォーラム参加申込書の検討と確定

(木村) ということで、いよいよ今日の本題です。フォーラム説明書およびフォーラム参加申込書の検討と確定をしていきたいと思います。

A3で折ってあるのがフォーラム説明書です。この中に申込書を挟んで、あとは返信用封筒もはさんで、渡すということになります。市民の方にはこれらを封筒に入れて、封筒には説明書の1ページ目がそのまま印刷される。まあ、「冊子」を「封筒の中」に変えればはありますが、1ページ目を印刷して、封筒でお渡しする。中から同じ文面の説明書が出てきて、中を見ると、少し細かい説明が書いてあって、あとは申込書と返信用封筒が出てくるということになります。

専門家の場合は、申込書と返信用封筒が説明書ではさまれて、ゼムクリップで留められて、アンケートが入っている封筒と一緒に入っているということになります。

まずは検討事項が少ないと思われる、申込書を先に確定してしまいたいと思います。こ

れはずれようがないので、確定をしてしまいたいと思います。F4-9が専門家用です。F4-10が首都圏用ということになります。

これは申込書なので、このように記入をしてもらって、すぐに投函してもらおうという、それだけのスタイルにしました。本当はファクスもあってもよかったのかもしれないけど、いろいろ面倒なので。

情報としては、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、性別、年齢。首都圏用には、どこにお勤めなのかという質問。専門家用には専門分野と経歴があるということになります。

あとは、Q6（首都圏はQ5）に、原子力の利用に関する質問が入っています。

裏面に行きますと、ムラがどうかという質問はやめました。安心、経済的な発展、あとは省エネの質問と、電気料金の話をセットしていると。

一番下に、「クリーム色の封筒に密封して、投函してください」と書いてあります。「委託している調査会社ではこの封筒を開封しません。東京大学にそのまま回送します」という文言を入れているということになります。

ということですがけれども、こちらはいかがでしょうか。本アンケートのほうは明朝体で書かれていますけれども、フォーラムの説明書は少しかわいらしいゴシック形（メイリオ）にしたので、混乱しないように申込書もメイリオにしました。

何かお気づきの点はありますか。

—— 専門家のほうのQ10は、「あなたは、原子力発電をやめるためであれば、電気料金が上がっても構わないと思いますか」という質問ですよ。選択肢の6番目の「原子力発電をやめる必要はない」というのは、気持ちはわかるのですが、「やめるためであれば料金が上がってもいいですか」という質問に対して、答えになっているのですか。

（木村） これは、実は複数回答してくる人が多いだろうということを想定しているということですね。

本当は、2問必要になるのです。まず、「やめてもいいと思いますか。やめなくてもいいと思いますか」を聞く必要がある。でも、それはこの申込書では、前のページで聞いているのです。かつ、場所をずらすことはできない。ということで、1問の設問で複数回答でできるような設問としては、このようにせざるをえないだろうということで、これは次善の策です。

結果として、やめなくてもいいなという人は6番をつける。だから、6番をつけて、1番をつけるという人もいるということです。2つつけても構わないという設計で作っています。

—— 複数回答でいいということは書いていませんよね。

(木村) 書いていないです。これは、あえて書いていません。その代わり、「1つ選んで」
とも書いていません。そういうスタイルで、ここはあえて複数回答にするようにやっ
ているということですね。

これは、うーん、仕方がないねと言いながら、苦肉の策として作りました。

—— まあ、話を聞けば分かりましたけど。

(木村) だから、学術的な分析に使えるかと言われると難しいですけど、どうい
う人たちが集まってくるかを知るためには使いやすいということです。

他はいかがでしょうか。回収日程を書かないといけないですね。1月の末ですね。1月
末は、1月31日。2月1日にしますか。金曜日だから。

—— 1月末でやったほうが良いような気がしますけど。2月1日だと、まだ延びる人も
いますから。

(木村) アンケートの回収を考えるとときには、基本は月曜日にするのです。

ポストの中身を金曜までチェックしない人が多いから。だから、金曜に見て、あ、こ
れは月曜までかということで、土日にやってくれることを期待して、月曜締め切りにする
のが通常なのです。

—— 私も、平日にアンケートには答えられないですね。土日に時間があれば答える。

(木村) そうなのです。だから、本当は2月4日(月)が良いのです。なので、実はこ
ちら(F4-3)は月曜と書いてある。そういう意味です。これは長い調査の経験から。

だけど、今回は1月26日に回収すると言っていたから、なぜだろうと思っていたのだけ
ど、たぶんそれは輿論科学協会の都合で、データを打ち込みを月曜日からやりたいからで
すね。そうでないと、2月の頭に納品できないからだと思います。

—— 1週間早い、1月28日では早すぎますか。

(木村) 専門家はそれでもいいのかもしれないですけど。首都圏側はフォーラム申込書
が届く時期が遅いので。でも、専門家と一緒に(1月26日)に、というほうがいいですか。
どちらがいいですか。

けど、1月末でいいですよ。あまり遅くなると今度は、我々の開封作業が大変になるの
で。

—— ええ。私は、1月末がいいと思います。

(木村) では、1月31日木曜日まで。ここも太字で書きます。

申込書について、他はいかがでしょうか。結果としてシンプルな申込書になったのですが、いいですね。では、これで決めさせてもらいます。

では、今日の本題になっていくと思われる、説明書に移ります。まず、10分時間を取りますので、各自読んでいただいて、気付いたところを頭から言っていくというスタイルにしましょう。各自これ(F4-8)を、もらった人だと思って、読んでください。気になるところをチェックしてください。よろしくお願いします。

(各自チェック)

(木村) 時間ですけれども、よろしいでしょうか。

それでは、まず制度的に片付けなければいけないところから片付けていきます。2ページ目のフォーラムの実施、ここに日程の候補を書いています。最初は月1回にしようと思っていたのですが、月1回だとだれるし、そもそも変わらないというような意見もあって、社会調査グループのほうから、隔週くらいで集中して5回とったほうが来やすいのではないかと。あとは、8月の第2週の土曜というとお盆になるし、そこは避けたほうがいいでしょうかいろいろあって、結果として、5月から隔週で組んでみました。この日程に関して、いかがでしょうか。

今の決め方だと、5～7月の隔週土曜日午後と書けるので、書きやすいなということもあって。最初は、5月から9月の第二土曜日午後と書いていたのですが、8月10日は皆来ないと思いますと言われて、そうですねとなりましたが、どうでしょうか。都合の悪い日程はありますか。

—— 初日の5月25日の午前中、12時まで予定が入っています。

(木村) 場所はどちらですか。

—— 文京区だから、すぐ近くですね。12時までには終わります。他の日は大丈夫です。

—— 懇親会があるから、初回はスタートを遅らせてもいいのではないですか。

(木村) 遅らせると、次回から分からなくなってしまうので、開始時間は一致させておいたほうがいいと思います。終わりがそのときのタイミングで延びるとかは、何とでもな

るのですけど。1回目を1時半にすると、

—— 皆1時半になっちゃうわけか。

(木村) そうです。それに、1時半から3時間半だと5時なので、ちょっと厳しいですよ
ね。

では、初回は、申し訳ないですが、頑張ってくださいということで。

—— 12時には確実に終わります。ただ、例えば午前中に打ち合わせをするというのであれば、別の日にしたほうがいいですよ。初回ですからね。

(木村) そうです。初回はしっかり、皆来れるほうがいいですよ。6月からにしましょ
うか？

—— 6月1日からということですか。

—— そうすると、7月の第2週で、3連休にかぶるのですよ。

(木村) ああ、そうか。

—— そうですね。このままでいいと思いますけど。

(木村) では、前日ぐらいにちゃんと会合を開きましょう。

—— では、これで確定で、もう日程を押さえたほうがいいですね。

(木村) はい。これで日程を押さえておいてください。

—— 打ち合わせは、前の日を空けておいたほうがいいですか。

(木村) そうですね。24日を空けておきましょうか。では日程はこれで行きたいと思
います。

あとは、決めておかなければいけないのは、ホームページです。URLが決まっていれば、
もう出してしまいたい。PONPOのホームページがありますよね。この説明書が郵送され
ると、PONPOのホームページにアクセスする人がいるので、今のページで大丈夫かどうかと
か、いろいろセットしておかなければいけないのですけど、時間はありますか。1月頭です。

—— 1月頭だったら大丈夫です。

(木村) 大丈夫ですか。URL が書いてあったほうがいいですよ。いろいろ調べたいですよ。それまでには、このプロジェクト自体のホームページも作って、そこで全部見えるようにしておいたほうがいいのではないかと思います。

—— お金の出所とか。研究と書いてあるので、研究と私たちがどういう関係かなと思われるだろうから、あったほうがいいと思います。

(木村) では、ホームページを作って、URL も出すということですね。では、あとでURL は決めましょう。スケジュール的に、1月7日の週から専門家のアンケートは郵送されますので、それまでにはある程度の形はできていないといけないし、ださいホームページだと、あまりよろしくないの。

今、ホームページの設計をしてもらっているの、あとはどうやってアップするかを、神崎さん、少し検討してください。

あと、確認しておかなければいけないのは、最後のページです。「フォーラム」参加に関する諸条件。これはいわゆる倫理的な話とか、途中で撤回しても大丈夫ですよということとかを書いています。こういうものがないと基本的にはよくないので書いていますが、傷害保険等の加入について、という項目があります。我々が相手に何か損害を与えてしまったときに、それを補償できる保険に入っていることを示したほうがいいと思うのです。

—— そういう保険があるのですか。

—— 調べましたら、施設賠償保険を基にしたものがありました。でも、精神的なものはちょっと無理という話でした。

(木村) でも、それでいいと思います。

—— 施設賠償保険をベースにして、具体的な保険を、東京海上日動に頼むことにしています。

—— それは、例えばこのフォーラムに参加しようと思って出かけたけど、途中で転んで怪我しましたとか、そういうものも補償するようなものなのですか。

—— 基本的にはその場です。

—— その場だけ。到着してから終わるまでの間ということですね。

(木村) その保険は、フォーラム参加者に入ってもらうわけではないですよ。

—— 違います。我々が入ります。我々が相手に賠償責任が生じた場合に適用される保険です。

(木村) ということですね。例えば東大は、もう東大で入っているのですよ。学生も入っているのですが。これは NPO ベースでやるので、NPO として入るというのは、可能なのですか。

—— 一応、関係者の名前と NPO として入ると。

(木村) では、それでもう確定をして、ここにその情報を書いておきたいと思いますので。

—— ああ、そこまで書くということですか。

(木村) そうということです。ここに書かないといけないのです。どういう制度で補償できるようになっています、ということを書くことが必要だと。何かあったときにも、ここに書いてありますよねということで、これがある意味証拠物件にもなってきますので。なので、ここに今日中に書かないといけないので。

—— 分かりました。昨日千代田支所に教えてもらったので、そこに行って、5 回分の加入をしてみます。

(木村) 加入は来年でもいいのだけれども、

—— はい。5 回分の加入をすると。

(木村) そういう加入の仕方なのですか。

—— そういう加入の仕方です。1 年とかもあるでしょうけども、これは、フォーラムに限られていますよね。だから、5 回分加入すればいいと思います。

(木村) その後シンポジウムとインタビューがあるので、期限を決めたほうがいいと思います。でも、期限を区切りすぎると、インタビューが後に延びたときに補償できないから。

—— そうすると、1年間ですか。

(木村) こういう心理実験とかインタビューをやるときには、こういうを持っているだけで全然違いますので、入っておいたほうがいいかもしれません。ただ、値段がどのくらいによりますね。

—— 5回なら安いという話でした。

—— いくらですか。

—— 具体的には言いませんでしたけど、結構安いと。

—— ボランティア保険みたいなものなら、すごく安いです。うちはよく入るのです。エコツアーに行くときに何かあったときのために、3日間とか入るのです。何百円単位です。

—— 1回ずつよりも、やはり1年のほうがいいですね。安心ですね。

(木村) 1年というと、いくらになるのでしょうか。それが一気に上がるようだったらちよつと。

—— 3日間とかの期限だったら、何百円単位ですけどね。

—— 向こうも、1ヶ月だから安いと言ったと思うのです。

—— ボランティア保険でも、掛け捨て1年で、何百円単位であります。

(木村) そうですか。

—— 私たちが入っているのは、行き帰りに転んだとか、そういうのも全部カバーして、1年で何百円、という保険です。

—— それは、何日から何日ではなくて、1年単位の保険です。4月くらいに入って3月まで効くと。

—— それは、入っている個人に対する補償ですか。

—— そうです。

—— だから名前を全部固定しないといけないわけだ。

—— NPOのメンバーと、研究者と、元気ネット。メンバーは全部入れるつもりです。

(木村) そのボランティア保険は、相手を傷つけたときも払えるのですか。

—— 人の場合でも、ものの場合でも、結構全部カバーできるのです。

(木村) では、そういう保険でいいのではないですか。

—— 高くないのですか。

—— 高くないです。

(木村) 経験者に聞いたほうが早いかもしれないですね。

—— そのほうが早いかもしれないですね。

(木村) では、この会議が終わった後に早急に決めることにしましょう。来年1年間入ってしまえば、この事業以外でも使えるので。

いろいろな市民講座をやるにしても、「保険に入っている」と書けると全然違いますものね。あと、ホームページに書ける。そういうのをちゃんと書いておくのは大切なことから。

—— ただ、ひとつ質問なのですが、専門家と一般の方が議論しますよね。本人は大した気持ちじゃなくしゃべっていて、受けた人はものすごく精神的なダメージを受けるような場合もありますよね。それは保険の範囲に入るのですか。

—— それは入らない、難しいと言われました。

—— それは、診断しにくいから。

(木村) だから、フォーラムの参加の任意性、危害の可能性という項目を書いておく必要があるのです。答えられないとか、不快だと思ったら強要しないし、フォーラム途中で協力を取りやめる旨が示されても、それに対応しますと書いておかないといけない。

そういう事態が起きて、次回は行けませんとなったら、それは仕方がないです。そういう対応しかできないと思います。

—— そういう意味だったのですね。

例えば 3 回目ぐらいになって、急に私もうやめるわという人が出てきたら、欠員がでるわけですね。だから、なぜわざわざこんなことを書くのかなと思ったのですが、そういう意味があるのですね。

—— 途中で、私はもう嫌だと撤回した場合、補充はしないのですか。

(木村) できないですね。

—— そうすると、10 対 8 とかになることもあるわけですね。

—— なるべくそうならないように、にこやかにお迎えして、また次回来たいと思わせるようにしないと。

—— 意外と、専門家側のフォローが大変かもしれませんね。

(木村) そうですね。

—— 市民は、好きなことを言えるから、たぶん大丈夫だと思います。いきいきしてくるかもしれない。

—— そして謝金が出るのですから。

(木村) では、保険に関しては、入るということで、ここに記載することにします。

あとは、連絡先ですけれども、神崎さんも入れたほうがいいですね。

—— そう、誰かもう 1 人いたほうがいいですね。

(木村) 神崎さんも入れておいたほうがいいですね。何て書けばいいのだろう。再委託先代表者かな。

—— 「再」は要らないと思います。再だろうが、何だろうが、変わらないから。

—— 何も書かなくてもいいような気がします。

(木村) 何も書かないで、2名置いておきましょうか。代表者と担当者にしておけばいいですね。

—— 本文中に名前が載っているから、それでいいと思います。

(木村) 分かりました。では、連絡先は、神崎さんの名前をそのまま入れることにしたいと思います。

それでは、決めなければいけないことはだいたい決まりましたので、1ページ目から意見をお伺いして、決めていきたいと思います。

—— 上から4行目の、「原子カムラ」という言葉に代表されているような一般の人々と～」という表現が引っかかります。

—— これは逆ですよ。代表されるような原子力専門家と、一般の人々、ですよ。

—— いや、これは「原子カムラ」という言葉に代表されるような関係性」、という意味ですよ。形容詞が遠いので見にくい。

(木村) ここは、「原子カムラ」の話も関わっています。

一般の人に聞くと、「原子カムラ」という言葉を、半分以上の人は知らないのです。知らないから、原子カムラの説明も入れています。そして、こう呼ばれてしまっているところを、実はピックアップしたのです。

—— ただ、“代表される”という言葉はちょっと。

—— “象徴される”はどうですか。

—— “表される”とか。

—— 2 ページ目に書いてある原子カムラの説明が分かりやすいと思って読んでいたのですが。「原子力にかかわっている人たちが世間では「原子カムラ」と呼ばれてしまう事実」に注目して、原子力専門家と一般の人が協働して、この文章は読みやすくないですか？

—— だけど、ここと同じにすると、同じような文章が何回も出てくることになりますよね。

(木村) そうです。しかも封筒にも書いてあるのですよ。

—— そうなのですよ。だから、その文章はいいと思うのですが、同じことを何回も読まされているという感じがするのです。

(木村) そうなのです。だから本当は、2 ページ目のフォーラム開催の目的のところは、「この研究は始まったばかりです。」も削除してもいいかなと思っているくらいです。

—— 私も、見直してしまいました。「あれ、同じ？」って。

(木村) 「この研究は始まったばかりです。」の文章は、最初は2 ページ目に書いていたのですが、これは1 ページ目に出したほうがいいなと思って1 ページ目に出して、2 ページ目は消さなかったのですが、2 ページ目は消していいでしょうか。

—— 2 ページ目では要らないかもしれないですね。

(木村) 1 ページ目は、「原子カムラ」の説明はしなければいけない。それから、「原子カムラ」の何に注目してこの研究が始まっているのかということを書かなければいけない。かといって、「原子カムラ」が問題だと言っているのではなくて、どちらかというと、「原子カムラ」と呼ばれてしまうような人たちと専門家がいるということが問題だと言いたいのです。

—— それと、社会がそのように見ているということですよ。

(木村) そうです。

—— “代表されている”というところを、他の言葉にしたほうが分かりやすいのではないかと思います。

(木村) “表されている”とかですか。

—— 「代表されているような関係性」ですよね。だから句点を入れればいいのですよ。「原子カムラ」という言葉で表されているような、一般の人びとと原子力専門家との関係性。

「表されているような」が「関係性」に係っているのだけど、そこが分かりにくいから、ご意見が出ているのでしょうか。

—— その次の行の、「そこで私たちは原子カムラというような」というより、「いわれるような」のほうがよくないですか。

(木村) なるほど。

—— 自分たちはそう言っているわけではないので。言われるような関係性。

(木村) 「いわれる」は漢字のほうがいいですか。

—— 私は漢字のほうがいいと思いますね。

—— 「言われている」とか、「言われるような」とか、「呼ばれる」とか。

—— 「呼ばれるような」、「表現されるような」。「言われるような」のほうがいいですね。

—— そのほうが口語的でいいと思います。

—— その上では、「揶揄して使われている言葉です」と書いてありますね。

(木村) ここは私も、「レッテルを貼って、揶揄して」は言いすぎかなと思ったけど、どうですか。

—— いや、私は、最初のほうは原子力大好きって雰囲気が出ていないほうがいいのではないかと考えていて、その点ではいいと思います。

そういう意味で、「将来のエネルギーや原子力に関する真つ当な議論」という部分も、やめる可能性があることも示唆してあげたほうが、さらに入りやすいのかなとは思ったのですけど。

—— 一般の人はね。

—— はい。ただ、これは専門家にも送るわけですよ。そこが難しいなど。

(木村) そう。一緒なのですよ。別にしてもいいかなと思ったのだけど、会場に持ってきたときに、「あれ？ 違うの？」と言われたらまずいなど。対等じゃないんだねと言われてしまうので、一緒がいいと思ひまして。

—— やはり一緒がいいと思いますね。

(木村) でも、今、別件で一般の方々にインタビューをしているのですが、その感じだと、原子力のインタビューを受けてくれる人という限定ですから、そこで偏っていますけど、「原子カムラ」という言葉を知っている人は、「ああ、何かムラの利権に絡んでいる人たちでしょ」と言うので、昨日までは、「利権に絡んだ～」と書いてありました。それだと微妙だなということで、こういう言葉を使われてしまっていることによって、専門家と一般の人たちとの間に何だか境界ができてしまっているところに問題がある。そういうことを今回取り上げたいということなので。

そういう意味で、「レッテルを貼って揶揄している」と書きました。重なっているもので、どちらか消してもいいと思うけど、どちらかといえば揶揄は使いたくないかな。「ひとくくりにしてレッテルを貼るために使われている言葉です」くらいにしておいたほうがいいでしょうか。「レッテル」って、それだけで駄目な言葉ですよ。

—— (言われたら) 立ち直れない。

(木村) 「レッテルを貼るために使われている言葉です」くらいにしましょうか。

それで、「将来のエネルギーや原子力の」の部分ですが、これは廃炉も含めてというつもりなので、「将来のエネルギーや原子力の今後」としますか。

—— 今後は、残すようなイメージが強いから。

—— このままでいいと思います。

(木村) これでいいですか。

—— 「原子力」といったら、今も今後もあるのだから。

—— ちゃんと、「真っ当な議論」と書いてあるから、このままでいいですよ。

(木村) はい。分かりました。

「真っ当な議論」についてですけど、今回自民党が大勝しましたけど、インタビューを聞いていたら、今の政治家を誰も信用していませんし。

—— 深く考えていないと思いますよ。

(木村) 一番興味深いのが、原子力推進でもいいんじゃないという人が、「でも、今原子力推進って言えない雰囲気ですよ」と言っていました。原子力廃止がいいと思っている人も、「でも、今原子力廃止って言えない雰囲気ですよ」と言っていました。両方言うのです。だから国民が、原子力に触れることがタブーだというような雰囲気になってしまっている。

—— ここ 2 ヶ月くらい、原子力に関する情報が少なくなったと思いませんか。それまでは延々と、金曜日のデモとか流れていたのに、一切しなくなったではないですか。

(木村) 今、雰囲気として、原子力に触れてはいけないみたいな雰囲気になってきていて。そうすると、メディアがこういう言葉を使うだけで、そうなんだとなっていてしまうから、すごく危ないですよ。本当はその辺りもうまく言えると面白かったなと思うのですけどね。

—— そう。だから、この「レッテルを貼っている」というのは、私たちとか、原子力カメラの人たちが貼っているのではなくて、他（メディア等）がレッテルを貼るから、こういう状況になってしまったということが、だんだん分かってきましたよね。この会合に参加していて。

—— 私も最初は「レッテルを貼り」というのは何か嫌だなと思ったのですが、この表現だと、他所から貼られて、それに私たちが左右されているということがすごく出ていますよね。

それから、9行目に「どうやったらこのような一般の人びとと原子力専門家との関係性を変えられるのかを見つけていきたいと考えています」とありますが、今は本当に一般の人と専門家の中に垣根があるかどうかは定かではないから、「変えられる」というよりは、違う表現のほうがいいと思うのですよね。私たちの最終目標は「変えられる」なのだと思いますが。

後のほうには「変えられる」と書いておいてもいいと思うのです。ただ、ここは何か、もっといい言葉がないかなと思ったのですが、何かないですか。

—— 「新しい関係」とかのほうがいいんじゃないの？

—— それでもいいですね。

(木村) その段落の一番下は、「新しい関係性を生み出していきたいのです」とあります。

—— それを言うのだったら、今の現実としては、これなのかな。

(木村) 「どうしたら」ではなくて、「どうやったら」になっていますね。「どうしたら」でいいのかな。

—— 「どうしたら」でしょうね。「どうやったら」はしゃべり言葉になっているので。

—— 「このような」は要らなくないですか。このように対しての記述が前にないから。あと、その下の、一般の人々の代表という、

(木村) ちょっと待ってください。1つずつ解決していかないと。「このような」を消すとすると、

—— 「このような」を消すと、原子カムラの意味がなくなってしまうので。

—— 消さなくていいと思いますけど。

—— ああ、「このような」というのは、一般の人びとと原子力専門家との関係性を、に係るのか。ごめんなさい、私が間違えました。

(木村) 「このような」の場所を変えるのはありかもしれない。

—— 「このような関係性」にするのですか。

(木村) 「一般の人々と専門家とのこのような関係性」のほうがいいかもしれない。次は、「変えられる」という表現についてですね。

—— フォーラムで話し合いの場を作り、現状がどうなっているか把握して、そして最後に「立場を越えて共に考え、尊重し、協力して取り組んでいけるような、新しい関係性を見出していきたい」だから、フォーラムでは、どんな関係があるのかを見つけ出す、という順番でしょうか。

(木村) ここには、フォーラムという場を作って、フォーラムで何をしたいかという大きな目的を書いているのですね。

「本来の関係性を見つけていきたいと考えています」とかにしますか。

—— 「本来あるべき」ですね、それだとしたら。

(木村) 「本来あるべき」。でも、本来あるべきものがどういうものかは分かりませんが。

—— あるべき姿。

(木村) あるべき姿。ちょっと書いてみましょうか。

—— でも、参加する側にしたら、自分が参加することで変えられるというのは、参加する意欲にはなるのです。私だったら、あるべき姿を見つけるだけなら、あまり興味がわかないのだけど。

—— 皆さんが、変えられるかを見つけていきたいというもっと積極的な場をここに持ち込みたいと思っているのだったら、これはこれでもいいかなと思います。

—— 自分が参加することによって、新たに何かを変えていける、というのはすごく積極的な行動ですよ。そのくらい興味を持った人に参加していただくほうが面白いですね。

何に興味を持つかは、人によって様々ですよ。

—— そうですね。一般市民に原子カムラという概念があるかということ、私は、元々はこれで読むまでそういう概念がなかったので、そういう人もいないかもしれない。そういう人が参加してきたときに、「え？ そうなんだ」って改めて知る人もいると思うのですね。

—— 先生のおっしゃった、「原子カムラ」という言葉を一般の人はあまり知らないというのはそういうことなのですよ。

—— そう。だから、そういう人は、マスメディアやインターネットなどで貼られているレッテルを、フォーラムの場で知るわけではないですか。でも話したら全然違うかもしれない。前に話があったように、全然垣根はないかもしれない、というもあるし。だから、それで「本来あるべき」みたいに私は思ってしまったのですけど。

—— 関係性を知って、変えていけるかを見つけていきたい。段階的に書けばいいのではないですか。

—— 元々原子カムラとってくる人もいるかもしれない。全然、そんなの知らなかったと思う人もいるかもしれない。

—— そうすると、「変える」ということを言えないですね。知らないのであれば。

—— でも、「変えられるのかを見つけていきたい」という文章は、躍動感があっていいかなと思うのです。

—— そうなのですよ。

—— だから、「関係性を知り（共有して）、変えられるかを見つけていきたいと考えています」はどうですか。間にひとつ置く。これだと、最初から「変える」というテーマだと思ってしまうのではないですか。そうではなくて、まず「知って」、それから「変える」。

—— でも、この研究のテーマは、変えたいというのが基なのですよ。

—— だって、これは研究のテーマを説明しているところなのでしょう。だからそれをストレートに書くのは、私はいいと思ったのですけど。その後のページで、その「ところ」を説明しているわけでしょう。

—— 私がなぜ引っかけたかということ、この前の全体会合のときに、専門家の先生たち（土田先生）は、「変えられる」という言葉に引っかけたいらしたでしょう。

私たちにとっては、「変化」というのは、自分たちを殺して変えるというふうには思わなくて、新しいところにびよんと飛び込んで、すごく興味のあることだと捉える。だけど、専門的なことを思っちらっしゃる方にとっては、「変える」というのは、何ていうのかな、壊されるとか、本当に理論的にそこがきちっと固まっていないといけないのかなと、このあいだ思ってしまったので。

でも、目的としてはこれなのだから、はっきりと言ってもいいと思います。

(木村) もう、「変える」にしてしましましょう。「一般の人びとと原子力専門家とのこのような関係性をどうしたら変えられるのかを見つけていきたいと考えています」。

それで、フォーラムには一般の人びとの代表として、というところについて、何か意見を言っていましたよね。

—— ここで、「代表」という言葉を入れるのかなど。その 10 人については、あまり代表性というのを言っていないわけですよ。だから、ここで、「代表して」と言わないほうがいいのかなって。

—— 私選ばれるのかしらって、思う人もいるかもしれない。

(木村) そう。そういう人もいるかなと思って、あえて使ったのですけど。ないほうがよければ、

—— 首都圏の在住の方 10 名。

—— そのほうがいいのではないのでしょうか。その後シンポジウムにも出たいと思えば出られるわけだし。代表ということで頑張れる人もいるし、ちょっと重荷になる人もいるので、そういう気持ち的なところと。あとは全体的な選考の仕方考えたときに、ちょっと代表という言葉は、

(木村) 選考は、ちゃんと適切に選ぶから。こういう研究は代表性がないと基本的には意味がなくなりますから、そういう意味では学術的にある程度説明が効く代表性を担保するのです。

—— 私は、「首都圏在住の一般の方 10 名」でもいいような気がするのですよね。代表を入れるかは別にして。

(木村) 一般の方、にしますか。首都圏在住の一般の方 10 名。原子力学会に所属している専門家 10 名。そのほうが分かりやすい日本語でしょうか。そうすると、代表というのはなくなってしまいますけど、まあ、シンプルでいいかな。

—— すっきりした気がしますね。

—— 代表というのは、選んだという意味をここにきちっと入れたかったわけですよね。

(木村) そういうことに入れようと思っていました。

—— そういうことですね。選ばれたという意味と。日本を背負っているとか、そういう意味での代表と。2つ意味があると思うのですけど。

(木村) そうです。でも「選択」とは書きたくない。

—— でも、それを入れたかったら、「代表として参加していただきます」とすればいいのではないですか。

—— それか、一般の方の代表として10名。

(木村) 首都圏在住の一般の方10名、日本原子力学会に所属している専門家10名に代表として参加していただきます。にしましょうか。

「そこでは、皆様が、」この辺りがまた、ちょっと変な文章ですね。「そんな」とか入っているので、ちょっと柔らかすぎるなと思いながら書いていたのですけど。

—— 「そこでは、皆様が、原子力を含みながらもその他いろいろな話題を」というところが、「含みながらも」ではなくて、「原子力を含むその他いろいろな話題」でいいかなと思います。

—— そうですね。「も」というのは、作家の人は避けられるのですよ。付け足しの言葉で、よくないと。

それから、「他」という言葉も要らないと思うのですけど。

—— ああ、そうか。「含むいろいろな話題を」か。

(木村) 次のページにフォーラムの中身が書いてありますけど、省エネや安全神話があるから、大丈夫ですね。「全部原子力じゃん」って言われそうな気がして。

—— このページは最初の概要を書いていますから、いいと思いますよ。次のページでテーマが出てきますからね。どんなテーマがあるのだろうかと思ってしまうのですけど。

(木村) まあ、いいですね。では、ここは、「原子力を含むいろいろな話題を、対等な立場で話し合います」。

「そして、できるならば、」

—— すごい謙虚ですよ。

(木村) 「将来のエネルギーや原子力について、立場を越えて共に考え、尊重し、協力して取り組んでいけるような、そんな新しい関係性を生み出していきたいのです」という、もう完全な口語です。あえて口語にして、熱意を出してみようかと。

—— そうですね、いいですよ、分かりやすいです。

—— 私たちにとっては読みやすいですよ。

(木村) いいですか。

では次ですけど、「そんなに簡単にうまくいく」辺りの表現も微妙だと思っています。

—— 「そんなに」は要らないですね。

—— 関連して言うと、「います」と「おります」が全体的に混在しているのですよ。口語的に意識的にしているのか。下のほうは「おります」が何個かあるのですよ。逆に、1段落目の最後は、危惧して「います」ではないですか。

(木村) これはあえてです。うまくいくと思って「おりません」が、ぐらいの気持ちです。

上のほうは、どちらかという一般的な議論として、危惧して「います」と。だけど下は、私個人が、研究に参加してくれるかもしれない人たちに話しているという、そういう言葉として使っています。

—— 思っておりませんが、のほうが、つながりがいいような気がします。

(木村) 最初の試みから簡単にうまくいくとは思っておりませんが、～強く考えております。うーん。

—— 前の文が、「いきたいのです」ですから、「思っておりませんが」でもいいかもしれない。

—— うまくいくとは限りませんが、のほうがいいのでは。

思っていないんですが、強く考えております。混在はやはりよくないですか。

—— 日本語としては変ですよ。レベルを合わせないと。

—— 「思いませんが」ではおかしいですか。

—— 「思っていないんですが、強く考えております」というと、すっきりしない感じがします。

—— 「うまくいかないかもしれませんが」とか。

—— 「うまくいくかわかりませんが」。

—— ああ、それはいいかも。

(木村) 「最初の試みですので、うまくいくかどうかわかりませんが、これは取り組む価値のある、そして、成果をあげていかなければならない研究である」でしょうか。

—— 「これは成果をあげていかなければならない、取り組む価値のある研究である」と言ったほうがよくないですか。「成果をあげる研究」より、「価値がある研究」のほうがいい気がするのですよ。

(木村) そうですね。「成果をあげていかなければ」もいらなかなとも思っていたのですよ。「これは取り組む価値のある研究であると強く考えております」でもいいかなと思うのですが、それでいいですか。

「皆様にはこのフォーラムにご参加をいただき、「原子カムラ」を越えるための仕組みを作り上げてゆくことにご協力いただきたいと考えております。なにとぞ、皆様のお力添えをお願い申し上げます」。ここはいいですか。

—— 作り上げて「ゆく」は、「いく」にしてください。

—— 上のほうに、太字で「フォーラム」とあるじゃないですか。その下のフォーラムはカッコは要らないのですか。

—— あったほうがいいのではないですか。

(木村) もしくは、最初のフォーラムは、最初に出てきたから鍵カッコをつけたけど、それ以降はつけなかったことにしたほうがいいかもしれない。そのほうがシンプル。というか、次のページ以降もそうなっているから、何かあったら指摘して下さい。

では、1 ページ目はこんな感じでいきたいと思います。

—— 2 ページ目の上から 4 行目、「このような関係性を作り変えていく」と普通言いますか？

—— あまり抵抗はなかったですけど。

—— 確かに作り変えていくのだけど。

—— 最初に読んだときに、「作り」のところで 1 回気持ち悪いと思って、「変える」が付いていて、「ああ」となったのは確かです。左から順番に読むじゃないですか。「作り」のところで 1 回「え？」となって、「変える」まで読んで、もう 1 回読み直さないと、(頭には) 入らなかったですね。

—— 私もさっとは読めなかった。「作り変えていく」というのは引っかかった。

—— 「関係性を変えていく」とか。あまりいろいろな表現ではないほうがいいと思うのですよ。全部統一する必要はないかもしれないけど、最初で「変えられる」とか書いてあるので、そういうのに合わせたほうがいいのではないのでしょうか。

—— 「作り」は、もしかしたら入れなくてもいいかも。

—— 私は「作っていく」は残したほうがいいような気がする。

—— 作るというニュアンスが入っていたほうがいいのでしょうか。

(木村) 「変えていく」、それとも、「作る」にしますか。

—— そう、だからどちらかかなと思って。

—— でも、協働するのだったら、作り、変えていくという。私は「作り」のほうがいいかなと思う。

(木村) そうしたら、「新しい関係性を生み出していくためにはどうしたらよいかを明らかにするための研究です」でどうでしょうか。

—— 前のページと同じ表現ですよ。

(木村) そうです。「協働できるような」のほうがいいですか。

—— 「協働して」でいいのではないですか。

(木村) 「協働して」でいいですね。生み出すのにも使うし、その後も使っていくということですね。

—— その下の、「この研究は始まったばかり～」の3行は削除ですね。

(木村) 次は、「実施方法」について、どうでしょうか。

—— 5回全てに参加できることが前提、というのがなんとなく弱い気がしたのですよ。これだと、5回全部参加できない人も申し込んでしまうのではないかなと思いました。一応太字にはなっているのですが、ここにしか書かれていないので。

(木村) そうなのですよ。でも、「4回しか来れないんだけど」という人が来ると思いませんか？

—— どうしても行きたくて、隠して来る人がいるかも。

—— 4ページ目に、途中で下りられますと書いてあるので、それとあわせて、いいように解釈する人もいるかもしれない。

—— だから、原則として、

(木村) 「原則として」は入れないほうがいいのです。「原則として」は弱くする言葉だから。

—— 途中で下りることと、今日は都合が悪いから欠席するというのは、全然意味が違いますよね。

—— 本当は違うのだけど。でも、一緒にしちゃう人がいるかもしれないですね。

—— 4 ページの「協力者の資格について」というところに、「5 回参加できる人のみが申し込んで下さい」という話を入れるのはどうですか。

(木村) 「フォーラムの協力者には 5 回のフォーラムすべてに参加していただくことになります」と入れればいいのでしょうか。

—— ちょっと重いですか。

—— 理系の感覚なのかもしれないですけど、参加するための「条件」という言葉がどこかに入ると、ああ、5 回参加できないといけないんだというニュアンスが入ると思うのですよ。ただ、それをすると、上から目線というか、きつめに感じられてしまうのかなとも思っていて、それを入れているのかどうか良くわからないのですけど。

—— 資格より条件のほうが、ちょっと上から見ているというか、

—— そうですね。きつめの言い方ですよ。

—— ここの「フォーラム参加者」に関する諸条件、の表現ですか。注意事項とかにするということですか。

(木村) これはもう、「条件」くらいにしておかないと面倒くさいのですよね。

—— いや、私が言っているのは、2 ページのほうに、条件という言葉を入れるのは強すぎますか。

(木村) あ、それは強すぎる。2 ページに、5 回全て参加していただくことを条件とします、とは書けない。

—— 分かりました。

—— それなら、これで十分だと思う。

(木村) だから、これでいいですよ。4 ページもこの表現でいいのでしょうか。

—— 4 ページも、なくていいならなくても大丈夫ですけど。

—— でも、書いておくといいかもしれませんね。本気の方はきっと最後までしっかり読むでしょうし。

—— 例えば、申込書に、5 回参加できますかという質問を入れるとか。

—— 説明書を丁寧に読まないで、申込書だけを書くということがありますよね。さっと見て、ああ、面白そうと思って、申し込んでしまう。最後のページなんかは丁寧に読まない可能性はありますね。

(木村) では、申込書も「フォーラムにご協力をお願いする方をなるべくかたよらないように選ばせていただきますので、以下の設問にお答えください」は消して、「私は全 5 回のフォーラムに参加したいので、申し込みます」と最初に書いたほうがいいのかもかもしれませんね。

—— そうすると明確になりますね。

—— 申込書ですからね。

(木村) 「私は全 5 回のフォーラムに参加したいので、以下のとおり申し込みます」。以下のようにって、おかしいですか。

—— 以下のようにで、いいです。

—— この質問には皆〇をつけてくれるかな。

(木村) いや、〇をつけない人は、選ばないだけですから。

—— 本当に参加してほしいんだという意思を表して、お願いしますと。

(木村) これでいいですよ。こういうことを書いたほうが、申込書っぽいかもしれない。

—— 説明書のフォーラムの実施方法のところには、「皆様のご意見がなるべく偏らないように配慮いたします」と書いてありますよね。参加申込書には、「ご協力をお願いする方を

なるべくかたよらないように選ばせていただきますので」と書いてありますよね。

(木村) 申込書は消しました。

—— いや、消したのはいいのですが、私たちがしたいのは、「意見がかたよらないように」なのですか。「年齢や、性別や、お勤めがかたよらないように配慮します」なのですか。ここには「ご意見がなるべくかたよらないように配慮します」となっているので、どうなのかなど。

(木村) 皆様が、にしましょうか。ご意見はどうなるか分からないから。特に専門家は。皆様がかたよらないっておかしいかな。参加にご協力いただく方が、とかにしますか。

—— 人がかたよらないようにって、人が主語になっていると変な気がする。

—— 性別、年齢、ご意見が、って普通に書けばいいのではないですか。

(木村) いや、それは書けないのです。どうなるか分からないから。

—— ああ、そうか。女性が誰もいないとかもありえるわけか。

—— このままでいいんじゃないですか。

—— いや、私は、こう書くと思っていなかったのです。皆様のご意見がなるべくかたよらないように配慮するということが、参加者の決定の中で一番重要視されているところなのかな？ と思ったのです。もしそれならそれでいいのですが。

やはり、人が主語だとおかしいですね。

—— 「なるべく」より「できるだけ」のほうがいいと思います。

—— でも、主語がないと、何が偏らないのですか、という疑問が残りますよね。

(木村) ご意見が、にしますか。

—— ご意見が、なんとなく偏らないように配慮する。そうなのですね。それなら、いいです。

(木村) 「ご意見ができるだけ偏らないように配慮いたします。」

—— だから、Q5、6 辺りで選びますということでしょう。

(木村) はい。専門家はどうなるか分からないですけど。その辺りが全部一緒かもしれない。もしかしたら専門家は、省エネ辺りでずれるかもしれない。

では、他はいかがでしょうか。

次の、フォーラムの実施は、これで大丈夫ですか。

次の、シンポジウムの実施も、これでいいかなと思うのですが。フォーラム参加者のシンポジウムへの出席は任意ですということ、そのくらいでいいですよ。

次は、情報の公開です。

—— 「明示的にも黙示的にも明かにしない」、「ら」が抜けていますね。

(木村) はい。ここで言っているのは、こういう個人がこういうことを話したのだということ、外に言ってもいけないということですね。

ホームページの URL はあったほうがいいですか。

—— 私はあったほうがいいと思います。

(木村) どこに書きますか。「ホームページで公開し」のところにカッコで URL を入れますか。

—— 作る予定ですよ。

(木村) 作る予定です。この場所に URL を入れればいいですよ。

フォーラムには、研究関係者または資金提供関係者以外の立ち入りはございません。と書いてあります。文科省、もしくは JST、あとは PO とか、そういう人たちが来る可能性はあります。それで、マスメディアは入れませんということです。そうではないと、やっつけられないですからね。マスメディアは入れませんと書いたほうがいいですか。入れなくていいですよ。

—— 大丈夫だと思います。

—— マスメディアへの対応は、研究者およびホームページに公開されたデータに基づいて行なわれますと書いてありますから。

(木村) いいですよ。

次は、インタビューは9月後半ではなくて、もっと前でいいのか、8月からにします。

—— インタビューはシンポジウムの前からもう始まるということですか。

(木村) はい。たぶん時間的に厳しいので、そこで始めてしまってもいいかなとも思っています。どちらがいいですか。シンポジウムの後、9月からでもいいのですけれども。

—— 8月でいいんじゃないですか。8月と書いておいて、実際は9月からになるかもしれないのだから。人の都合によっては8月のほうがいいという方もいるから。

(木村) そうですね。

—— 記憶の新しいうちにやったほうがいいですよ。

(木村) そうです。できれば記憶が新しいうちにやってしまいたいので。ただ、シンポジウムに出たいという人には、「シンポジウムはどうでした？」も聞きたいから、シンポジウム後でもいいと思いますけど。では、8月にします。

謝金は、こういう形にすればいいのではないかと。ただ、専門家はどうしますかという議論があるけど、仕方がないですよ。例えば、交通費が多くかかる方は、別途ご相談ください、にしますか。ただ、予算的に厳しいような気もするのですよね。

—— 30キロ圏内なら、

—— いや、専門家は全国です。専門家は職業があるから。

(木村) (なくても) いいですよ。

—— (なくても) いいと思いますよ。

—— インタビューは謝礼はないのですか。

(木村) インタビューも謝礼はありますね。シンポジウムは特にないですが。フォーラム1回につき5000円、インタビュー5000円で、3万円ですね。

—— でも、近くの方は交通費それほどかからないですけど、遠くの方はそれなりにかかりますよね。

(木村) まあ、30キロ圏内なので、首都圏の方はこれで我慢してもらって。

—— でも、来たい人にとっては、来て話せることのほうが、きっともっと大きい収穫だと思うのですね。

(木村) 懇親会費は別とか、入れたほうがいいですか。

—— 入れなくていいですよ。「懇親会は自費参加」とそのときに言えばいいでしょう。

(木村) では、謝金はこのくらいにして。
実施者、費用のところは大丈夫ですね。

—— 文科省は略してしまっているのですか。

(木村) いや、略さないほうがいいと思います。

—— そこを直すのであれば、4ページ目にもありますので。
で、フォーラムに参加するためには、のところですね。

(木村) うん、ここはこれでいいですか。もうちょっと目立つようにしたほうがいいですか。

—— 期限は入れたほうがいいと思います。

(木村) 1月31日(木)までに。これは太字ですね。

ここは、ご連絡、ご連絡、がいっぱい続いて、気持ち悪いなと思ったのですが、これ以上書きようがなくて。

—— ないですね。

(木村) 「ご連絡を差し上げます」じゃなくて、「連絡を差し上げます」ですね。

—— 差し上げるがと思ったら、「ご連絡」だと思います。連絡しますだったら、「ご」はな

くていい。敬語は、レベルを合わせないといけないから。

(木村) 連絡の時期、でいいか。2月末から3月頭、初め、どちらですかね。上旬？

—— 初めか上旬ですね。

(木村) この部分は最初はなかったのです。全体をばーっと読んでいたときに、フォーラムのことはわかるけど、どうやって参加したらいいのか分からないなと思って、急遽追加したのです。ではこんな感じでいいでしょうか。

では最後に4ページ目ですが、これは決まり文句みたいなもので入れているので、これでいいかなと思っているのですけれども。

—— フォーラムの参加の任意性とありますよね。「実験への参加を断ることにより」は、「実験への参加をお断りになることにより」のほうが文章として適切だと思います。

(木村) ここは、「実験」は「フォーラム」に変えておいたほうがいいですか。

—— 実験は怖いと思うかもしれない。

—— フォーラムの参加は任意なのですよね。

(木村) はい。本当は任意じゃ困るのですが、これは書いておかないと。

—— 「実験」を全部「フォーラム」にすると、フォーラムが4つぐらい並ぶのですが。

(木村) 途中からは「参加」だけにしましょう。

—— 不利益の話が2回ありますが、2回目は要らないのではないですか。

—— 2回目の文は、同意を撤回するのに対してですよ。

—— ああ、そうか。

—— 協力者という言葉が使われていますよね。

(木村) 参加者にしますか。

—— 参加者でいいのなら、参加者のほうがわかりやすいかなと思いますけど。

(木村) 「フォーラムの参加者には 5 回のフォーラムの全てに参加」という表現になってしまうのですよね。

—— そうですね、確かに。

—— 「決まり」っぽいので、これでもいいと思いますけど。

—— では、それでいいです。

あとは、3 つ目のポツの 2 番です。「フォーラムへの参加を取りやめます」という表現はおかしいですね。「取りやめることができます」でしょうか。

—— 取りやめることができます、のほうが自然ですね。

(木村) 取りやめます、は私たちがやることですからね。

—— そうですね。主語は先方ですね。

(木村) そうです。はい。他はよろしいでしょうか。

—— 「各回の冒頭には、録音や録画についての協力をお聞きし」となっていますが「各回の冒頭で、録音や録画についてお聞きして、同意が得られた場合、開始する」と削っては駄目ですか。

—— 協力を除くということですか。

—— 「各回の冒頭には」と書いてあるから、「各回の冒頭で」、

(木村) 「で」と「には」は別にどちらでもいいですけど、「協力」という言葉を削る必要性はどこにあるのですか？

—— 協力してもらえるかどうかを伺うということですか？

(木村) そうです。

—— 録音してもいいですよ、録画してもいいですよと皆さんが言ったら、始める。

(木村) では、ここからは録画します。ここから録音します。それを毎回やるということです。その確認は必須です。

—— テーマによっては、嫌だっていう場合もあるということですよね。

—— ありますね。

(木村) 嫌だといわれたら困るけど。

—— でも、この文は残さないで。

(木村) これは、入れないと意味がないですね。ここはもう、これでいきます。

あとは、「参加申込書の情報の取扱について」は、輿論科学協会に文言を作ってもらったので、そのままです。お堅い文章だったらこんな感じですよというのをつくってもらって、これなら問題ないでしょうと。

あとは大丈夫でしょうか。

—— 最後に神崎さんの名前を入れると。

(木村) 神崎さんの名前をここに入れると。

これで一通りできたと思いますので、あとは、最終チェックを竹中君に手伝ってもらって、終わりにしたいと思います。

3. 今後の進め方について検討

(木村) 最後に、今後の進め方について検討と書いてあります。これはどういうことかと言うと、予備フォーラムを実施するかどうか、です。するのなら、いつごろにやったらいいのか。これは次回と関わってくると思うので、決めたいと思っています。

次回以降の予定が、議事次第に書かれています。1月8日は朝10時からここでやります。原子カムラの話提供と、あとはコミュニケーション・フィールドの本がどうなっているかというのを少しまとめてもらって、それを話提供してもらおう。それが午前中ですね。

(竹中) 「原子カムラ」のほうも必要ですか。

(木村) できればお願いします。

あとは、目標としてはこの日にフォーラムの具体的設計をもっと細かくするのと、マニュアル要件を洗い出していくためのディスカッションをして、できるだけ進めるというのが1月8日です。POの岩田先生という方がいらっしゃるかもしれません。

次が、1月18日です。これもマニュアルの要件洗い出しと作成に向けて。第7回は未定で、第8回は2月19日です。この日は、申込書が戻ってくることを期待して、それを全部チェックして、メンバーの選定を行うことになります。

今年度の流れはこのようになりますが、予備フォーラムみたいなものをやるとしたら、どのタイミングがいいでしょうかということですね。1月18日に予備フォーラムをしてみ、そこでマニュアルになりそうなところを洗い出しておいて、次にマニュアル確定に向けて作業を進めるとかがいいかなと思ってもいるのですけれども。やはり、内部でやってみたほうがいいですよ。ちょっとロールプレイ的にやりましょうか。

では、1月18日は、ロールプレイ的なイメージで、予備フォーラムということにしましょう。なので、1月8日の午後は、その予備フォーラム実施に向けて、いろいろ整備することにします。

予定した議題は終了しましたが、何か皆さんからございますか。それでは、これで今日は終わりにします。どうもありがとうございました。

以上